土壌くん蒸剤
D-D剤

テロン™

農林水産省登録　第２２０３２号
（ダウ・ケミカル日本（株）登録）
性状：淡黄色澄明液体
毒性：劇物
危険物：第四類第二石油類
有効年限：３年
包装：２０ℓ

有効成分：1,3－ジクロロプロペン（化管法第１種）・・・・・９７.０％

殺虫剤分類	８Ａ
殺菌剤分類	―

TMはザ・ダウ・ケミカル・カンパニーまたはその関連会社の登録商標です。

特長

○テロンは、土壌処理されることによりガス化して土壌中で拡散するので、効率的に土壌病害やセンチュウ類、コガネムシ類を防除することが出来ます。

○センチュウ密度の高い条件下でも、優れた効果が期待できます。

○センチュウによる作物への加害が要因の一つとなり、土壌病害の発生を増長させる現象を「複合病」と呼びます。センチュウ防除は病害対策においても意味があります。

○成分の純度を高め、地下水汚染などの原因となる不純物がほとんど除去されています。環境面に配慮されたくん蒸剤です。

適用病害虫名及び使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	D-Dを含む農薬の総使用回数
ブロッコリー カリフラワー	テンサイシストセンチュウ	２０ℓ／１０ａ （１穴当り２ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	１回
はくさい キャベツ	テンサイシストセンチュウ	２０ℓ／１０ａ （１穴当り２ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	１回
	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫	１５～２０ℓ／１０ａ （１穴当り１．５～２ｍℓ）			１）全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 ２）作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に３０cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	
ほうれんそう	テンサイシストセンチュウ	２０ℓ／１０ａ （１穴当り２ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	１回
	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫	１５～２０ℓ／１０ａ （１穴当り1.５～２ｍℓ）				
キャベツ	テンサイシストセンチュウ	２０ℓ／１０ａ （１穴当り２ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	１回
	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫	１５～２０ℓ／１０ａ （１穴当り1.５～２ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	1) 全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に３０cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	１回

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	D-Dを含む農薬の総使用回数
レタス 非結球レタス 非結球あぶらな科葉菜類 せり科葉菜類 きゅうり すいか いちご トマト ミニトマト メロン かぼちゃ なす ピーマン とうがらし類 まくわうり だいこん はつかだいこん にんじん かぶ ごぼう てんさい こんにゃく さといも らっかせい しょうが やまのいも みょうが（花穂） みょうが（茎葉） しそ しそ（花穂） バジル うど 薬用にんじん 食用ぎく オクラ にがうり もりあざみ らっきょう みしまさいこ さやいんげん にら つるむらさき	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫	１５～２０ℓ／１０ａ （１穴当り１.５～２ｍℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	1) 全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に３０cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	１回

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	D-Dを含む農薬の総使用回数
ねぎ	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫	１５～２０ℓ／１０ａ （１穴当り1.5～2mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	1) 全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に３０cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	１回
	ネダニ類	２０ℓ／１０ａ （１穴当り２mℓ）			全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	
うり類(漬物用)	センチュウ類 コガネムシ類幼虫	１５～２０ℓ／１０ａ （１穴当り１．５～2mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	1) 全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に３０cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	１回
だいず	ダイズシストセンチュウ	２０ℓ／１０ａ （１穴当り２mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	1) 全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に３０cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	１回
	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	１５～２０ℓ／１０ａ （１穴当り1.5～2mℓ）				
えだまめ	ダイズシストセンチュウ	２０ℓ／１０ａ （１穴当り２mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	1) 全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に３０cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	１回
	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	１５～２０ℓ／１０ａ （１穴当り1.5～2mℓ）				
豆類(未成熟、ただし、えだまめ、さやいんげんを除く)	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	１５～２０ℓ／１０ａ （１穴当り1.5～2mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	1) 全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に３０cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	１回
ばれいしょ	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	１５～２０ℓ／１０ａ （１穴当り1.5～2mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	1) 全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に３０cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	１回
	ジャガイモシストセンチュウ	３０～４０ℓ／１０ａ （１穴当り３～４mℓ）				
	青枯病 そうか病				全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニール等で被覆する。	
	ジャガイモシロシストセンチュウ	４０ℓ／１０ａ （１穴当り４mℓ）			全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し、直ちに覆土鎮圧する。	
かんしょ	ネコブセンチュウ	１５～３０ℓ／１０ａ （１穴当り1.5～3mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	1) 全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に３０cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	１回
	ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫	１５～２０ℓ／１０ａ （１穴当り1.5～2mℓ）				

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	D-Dを含む農薬の総使用回数
茶	ネコブセンチュウ	２０ℓ／１０ａ （１穴当り２mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し、直ちに覆土鎮圧する。	１回
花き類・観葉植物（きくを除く）	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫	１５～２０ℓ／１０ａ （１穴当り1.5～２mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	１）全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 ２）作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に３０cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	１回
きく	ネグサレセンチュウ	１５～４０ℓ／１０ａ （１穴当り1.5～４mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	１）全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 ２）作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に３０cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	１回
	ネコブセンチュウ コガネムシ類幼虫	１５～２０ℓ／１０ａ （１穴当り1.5～２mℓ）				
樹木類	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫	１５～２０ℓ／１０ａ （１穴当り1.5～２mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	１）全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 ２）作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に３０cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	１回
すぎ（は種床） すぎ（床替床） ひのき（は種床）	イシュクセンチュウ ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫	１５～２０ℓ／１０ａ （１穴当り1.5～２mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	１）全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 ２）作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に３０cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	１回
ひのき（床替床）	イシュクセンチュウ ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ コガネムシ類幼虫	１５～２０ℓ／１０ａ （１穴当り1.5～２mℓ）	作付の１０～１５日前まで	１回	１）全面処理 耕起整地後、縦横３０cm間隔の碁盤の目に切り千鳥状に深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。 ２）作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に３０cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	１回
たばこ	ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	２０ℓ／１０ａ （１穴当り２mℓ）	作付の３０日前まで	１回	1)全面処理 耕起整地後、３０cm×３０cm間隔で地表面から深さ１５cmに所定量の薬液を注入し、直ちに注入口をふさぎ、鎮圧する。	１回
		４～６ℓ／１０ａ （１穴当り1.３～２mℓ）	作付の３０～４５日前まで		2)畦内処理 植付前、畦立・畦面被覆後に、植付予定位置の深さ１５～２０cmに所定量の薬液を注入し、直ちに覆土鎮圧する。但し、ガス抜きは行わないこと。	

使用上の注意事項

●土壌中にガスを十分拡散させるため、耕起、整地はていねいに行ってください。
●生育中の作物には薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
●処理は原則として作付の１０～１５日前に行い、作付の３～４日前に畑を耕起して十分にガス抜きをしてください。ガス抜きが不十分な場合には薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
●処理後大雨があったり、土壌が重粘土質で通気の悪い所では、ガス抜きを特に念入りに行ってください。
●温度の低い時、薬量を多くした時は、注入から作付までの期間を少なくとも１週間くらい長くしてください。
●処理後、未消毒の土がなるべく混入しないよう注意してください。
●ばれいしょのそうか病に対しては、地温が低いと効果が不十分な場合があるので注意してください。
●茶葉を収穫する茶樹成木には使用しないでください。また、茶樹幼木に使用する場合は、翌年に茶葉を収穫しないでください。
●ミツバチの巣箱周辺での使用はさけてください。
●処理後の放置期間と効果、薬害との関係は、土壌の種類、腐植土の多少、温度、 土壌水分、作物の種類によって一様でないので本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意してください。特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
●適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

安全使用上の注意事項

●医薬用外劇物。取扱いには十分注意してください。 誤って飲み込んだ場合には吐かせないで、保温して安静にしながら、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には通風の良好な場所で足を高くし、顔を横に向け、体を暖め、頭部を冷やして安静にしながら、直ちに医師の手当を受けてください。
●本剤は眼に対して強い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。 眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
●本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。 付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
●本剤の投薬及びガス抜き作業の際は吸収缶（活性炭入り）付き防護マスク、不浸透性手袋、保護眼鏡及 び長ズボン・長袖の作業衣を着用し、薬液が皮膚に付着したり、揮散したガスを吸い込んだり、また薬液やガスが眼に入らないよう注意してください。
●作業に際してはガスに暴露しないように風向き等を十分に考慮してください。特に住宅付近での使用に当っては十分注意してください。
●作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
●作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
●かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
●本剤が衣服等に付着した場合には直ちに着替え、本剤が付着した衣服等は他のものとは分けて洗濯し、臭気が抜けるまでは身に付けないでください。
●作業中及びくん蒸中の圃場へ小児等作業に関係のないものや家畜、家禽が立ち入らないよう十分に注意してください。
●街路、公園等で使用する場合は、作業中及びくん蒸中に小児や作業に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
●危険物第四類第二石油類に属するので火気には十分注意してください。

水産動植物に係る注意事項

●水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。 養殖池周辺での使用はさけてください。
●使用量に合わせ秤量し、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管に関する注意事項

●危険物第四類第2石油類に属するので、火気には十分注意してください。
●火気をさけ、種子、苗、肥料及び他の農薬などと隔離し、直射日光があたらない鍵のかかる低温で乾燥した場所に密栓して保管してください。